

令和5年度第3回地域医療構想調整会議 議事録

日時：令和6年2月28日（水）

13:00～14:15

開催方法：ハイブリッド

WEB会議システム Zoom を利用

会場：真庭地域事務所3階大会議室

1 開会

真庭保健所長挨拶

第3回の会議となりました。委員の皆様には、計画・策定に鑑みご協力いただきましたことをこの場を借りてお礼申し上げます。この計画を中身あるものにするため、今後も進捗状況の確認が必要となります。真庭圏域は、2040年問題の先駆的地域であり、人口減少、アクセス、人材確保等の問題を引き続き検討していく必要があります。

また本日は、2025年に向けたものとして、湯原温泉病院から経営強化プランをお示しいただきご意見いただく予定ですのでよろしくお願いいたします。

2 議題（議事進行：金田委員）

（1）今後の地域医療構想について（真庭保健所長から資料に従って説明）

（国通知から）

- ・地域医療構想は、地域の実情を踏まえ、主体的に取り組みを進めるもの。
- ・2026年度以降の取組は、医療・介護の複合ニーズを抱える85歳以上人口の増大に伴う医療需要の変化に対応していく必要がある。

（真庭の現状）

- ・真庭管内将来推計人口は、5年前の推計と比べて人口減少が進んでいる。
- ・診療所の閉院が増え、中山病院も閉院した。

（データ分析事業）

- ・療養病床の在院日数が短いことから、退院後どこに行くのか等分析した。
- ・グラフのとおり真庭の特徴がわかった。詳細を川崎医大の櫃石先生に分析してもらったが、地域の実態を教えてもらいたい。
- ・令和5年に療養病床を持っていた中山病院が閉院したが、その影響はあるのかについても教えてもらいたい。

（2）真庭市国民健康保険湯原温泉病院経営強化プランについて

（湯原温泉病院岡院長から、プラン概要について説明）

- ・人口減少に伴い患者の減少、収益の減少等があるが、蒜山エリアからの患者流入などで、増加を目指していく。
- ・へき地のため、今後オンライン診療を検討していく。

3 意見交換

(1) 保健所からの情報提供について

金田議長：療養病床のデータを確認すると、特徴があるが実感としてどうか。令和4年の療養病床は中山病院もあり、家庭からの患者を多く受け入れていただいております、その影響も考えられると思うが。療養病床は、人生最後の場だけでなく、例えばALS、パーキンソン等の難病患者がショートやレスパイト入院での活用もある。

岡委員：療養病床のデータは意外な印象を受けた。実感としては長期の入院患者が多い。中山病院が療養病院の機能を担っていたのか。中山病院の閉院の影響で来年は違うデータになるのではないかと思う。

大西委員：落合病院は、透析患者が40床の内20床と多く、通院できない方や年単位の入院者もいるので長期となる。在宅患者のためのショート4床や、シャントのため日赤等に転院になる患者もあり、在院日数が短く出るのはないか。現状とかけ離れている感じはある。

池田恵委員：療養病床をショート、ミドルステイとして上手に使っている。レスパイトも、うまく活用し連携ができていると思う。真庭は他地域より老人保健施設が少なく、医療が必要な老人保健施設の役割を療養病床が担っているのではないか。

池田副議長：湯原温泉病院は救急機能もとれ、病床の回転率もよく、入院が少ないことは悪いことではない。死亡退院もなく在宅に帰れているのは機能的によいことと思う。

金田議長：真庭の訪問看護の特徴は、訪問看護ステーションがすべて医療機関に併設されており、他地域のような株式会社設立はない。患者の医学的情報を十分理解し、適切な医療が提供できている。

光井所長：このデータは令和4年実績で、中山病院に療養病床が多くあった。これで終わりではなく、分析半ばであり中山病院閉院後の令和5年以降のデータも継続して分析していく予定である。

(2) 湯原温泉病院経営強化プランについて

金田議長：作業用ツールから病床数を確認すると、落合病院は173床から135床。金田病院は172床から120床にそれぞれ減床しているが、湯原温泉病院はずっと105床のまま。湯原地区は人口が最も減っているが適正な病床数だろうか。民間病院だと繰入金はないので、病床数を決めるのに地域の人口や経営状況を考慮することは当然だ。

湯原温泉病院：公立でも医師や看護師等確保は困難。年齢層に偏りもある。

実際には75床が稼働している。条例改正等もあり、少しずつ病床を減らすことは

困難。ある程度固まってから条例改正も検討したい。今は交付金も稼働病床数で算出されている。

金田議長：もし民間病院だったらどのくらいの病床数が適正か院内で検討したところ、60床程度かなという話になった。

光井所長：プラン全体を通して説明いただけた。へき地医療も人員が減り厳しい中での対応よくしていただいている。経営も考えると、病床削減は必要だと考えるが、条例改正が必要なため段階的削減は難しいが、地域の方に急な変化が起きないように良いタイミングを検討してもらいたい。

金田議長：社会医療法人金田病院も、へき地診療所である美咲町西川診療所に、週4日医師・看護師を派遣している。人員不足等で厳しい中だが地域からの強い要望に応える形で受けた。生じた赤字を町から補填していただけることは非常にありがたい。どこの診療所もなかなか後継者がいないのが課題だ。

池田副議長：以前は久世地域の患者は、落合・久世・勝山地域で解決していたが、最近は困ったときは湯原温泉病院が引き受けてくれる。特にコロナ禍では湯原温泉病院にお世話になった。また、手術が減少しているのは湯原温泉病院だけでなく市内全域で外科・整形外科医が少なくなったからだ。救急も同様。在宅往診料多い。小児科にも目を向けて、かかりつけ医が診ていくようにすることで、健全な地域となると思う。

金田議長：貴重なご意見ありがとうございました。湯原温泉病院においては、ご意見を参考に3月中にプランを作成してもらいたい。

4 閉会

池田副議長挨拶

本日はお忙しいところお集まり、ご協議いただきありがとうございました。難しい内容だったので、参加者皆様の意見が聞けず残念でした。少ない関係者でもこの真庭地域で頑張りたいと思います。また、高齢化問題があっても真庭地域を守っていきたいと思いました。ありがとうございました。